

番傘川柳本社

4月投句句会

締め切り……令和8年3月15日
 参加者……………96名
 投句整理……………柴田桂子
 名簿作成……………中岡千代美
 清記……………西上遊二

宿題 サイン 石丸 尚志 選

ここへ判押してと妻が夢にでる 山岸 峰隆
 ウィンクでサイン出してる 二人仲 坂本 和子
 サインして判を押したらサヨウナラ 毛利 元子
 有名人崩しすぎです読みづらい 松岡登代子
 絵を仕上げ自信を持って書くサイン 鈴木さゑ子
 凡戦にブロックサイン出番なし 瀬戸 波紋
 困り事サイン受け入れ人助け 高橋 孝造
 勧められロック読まずサインする 南 高志
 草野球サインは三つまでにして 安藤 緑
 見当がつかぬネオンサインの電気代 土居 直子
 延命治療無用と強くサインする 永田 紀恵
 双眼鏡サインを盗む外野席 高瀬 秀子
 ウィンクへついて来ました五十年 青嶋由紀美
 人柄のにじむ掛け軸書道の師 横山 順子
 妥協だと妻がしきりに目で合図 福本 清美

どの子にもサインやりたいスラッガー
 のど自慢いまからサインもらってこ
 プロ野球頭脳プレーと見るサイン
 始まりは静かだあれも気づかない
 矢印が頼りウメキタ迷わない
 身ぶり手ぶりのサインは不要名ゴーチ
 サインインしなげりゃ開かないスマホ
 サインコサイン分かれ今は違う道
 子のサイン見て見ぬふりの罪つくり
 このごろの郵便物もサインレス
 見逃したサインを悔やむこの事態
 朱印帳掲げて石段Vサイン
 サインして妻という字が照れくさい
 三度目もサインはしない都構想
 目くばせでウワサの二人抜けた宴
 壁いっぱいサイン球場より熱い
 草野球サイン読まれて負け試合

細川 正章
 栗原つや子
 田渕 愛子
 常國 喜好
 和泉富美子
 廣田ひで子
 鮎子田嘉子
 村田 繁一
 羽生 悦郎
 鈴木かつえ
 豊田 佳子
 西陣 五朗
 西川 東岳
 田中五十鈴
 森島アツ梗
 山口由利子
 龍田 清成

宿題 とろける 田中 薫 選

福祉とはサインをキヤッチする仕事 山岸 洋美
 儀打サインやっぱりそうかありがとよ 主税みずほ
 サイン会色紙の文字は抽象画 橋本 恭治
 挨拶が互いの誤解解くサイン 富川 章
 名刺の墨鮮やかな朱印帳 三瀬清一朗
 トランプのサインが世界を変えてゆく 戸田 清孝
 アイドルに握手をせがむサイン会 稲垣 義舟
 雅子さまのサイン笑顔で受け給う 石丸 尚志

君と居て心洗われ茶が旨い 掃部 博隆
 キムタクに出会おうと箸が止まる妻 阿部 俊八
 とろけてるハニートラップだよきつと 能田 文夫
 とろけそうな妻の笑顔へ胸騒ぎ 青嶋由紀美
 耳当たりの良い公約にとろけそう 中村八十八
 赤ちゃんのとろける笑顔見て笑い 神内 澄子
 少年へ大谷サインとろけさす 藤井 裕美
 煮こごりの旨さ今夜で店じまい 山口由利子
 若かったとろけるような甘い恋 島田千代子
 余寒の夜とろけるほどに湯につかる 橘 和美
 明け方の夢でとろけて寝坊する 山岸 洋美
 ステーキの舌にとろけるバースデー 三瀬清一朗
 選り取りの甘い言葉にムタを買う みよしすみこ
 とろけるように漂う恋の花ごろも 弘津 明子
 とろけると因果おさめる落とし蓋 田中きみ子

心地よく耳にとろける詐欺電話
日溜りで猫と寛ぐ春うらら
大島美智代

宿題

家

桑原すゞ代 選

財産はないが団欒あった家
相続の足枷になる古家屋
和泉富美子

ぬるま湯に慣れて覇気ない三代目
荒れ肌にとろけるような美人の湯
高瀬 秀子

家宝など一つもないが皆元氣
ただいまといつでも帰る家がある
松岡登代子

おおらかな母いる家の灯が温い
セコムして誰も来ないとぼやく家
田中五十鈴

謝罪文とろけるほどの美辞麗句
日に四度湯治の宿でとろけます
渡辺 柳山

自宅へと持ち帰るのは笑顔のみ
四人居た家にわたしと猫が居る
桑野まりこ

ふるさとに荒れた実家が残るだけ
新しい表札に家染まりだす
鈴木かつえ

極上のチョコより君の熱視線
くすぐられ財布の紐もとろけだす
鮎子田嘉子

なんとなく個食バラけてゆく家族
転けたのはいつもの慣れた家の前
志方 智外

五十年家もそれなり歳をとる
暮らせんよ一人ポツンと一軒家
田中 堂太

サギ師たちとろけるような手を使い
三日目のカレーの味がたまらない
福本 清美

あばら家があるからたまの里帰り
手に入れた終の住み処は村はずれ
吉丸 等

ローンすら張り合いとなるマイホーム
旅帰りがまるでおアシス我が家の灯
毛利 元子

財布の紐ロマン詐欺に溶かされる
下心美女にとろける蜜の罠
小林すみれ

我が城にいたわ居ました青い鳥
思い出の詰まる我が家を手離せぬ
若山 宗彦

問題の空き家一軒持っている
父の遺言最期は家で迎えたい
西陣 五朗

夕焼けにとろけるような地蔵の目
美女が弾くチェロの音色にうっとり
常國 喜好

私が城にいたわ居ました青い鳥
思い出の詰まる我が家を手離せぬ
阿部 俊八

挫折などとしては駄目だと父の家
高齢社会終の住処はケアハウス
中村八十八

恋に恋しているような人の顔
あの父が孫にとろける笑顔見せ
若山 宗彦

灯が点り家もゆったり呼吸する
子の家の近さ嬉しい老夫婦
神内 澄子

イクメンが支えるキッチンの明かり
施錠して元気に行って帰ります
中武 弓

孫の劇爺はとろけて出る涙
飲む程に昭和の声がとろけだす
栗原つや子

知らぬ間に空き家の増えたニュータウン
姦しい女系家族も三代目
細川 正章

家族っていいなと思う誕生日
宿題 無邪気
蔵田 康子

片意地もとろける友の思いやり
モンローのほくろに君は夢の中
戸田 清孝

このころはどうぞどうぞと言えぬドア
夫という家の重しがない不安
小林すみれ

てる坊主吊るして晴れを疑わず
一年生無邪気に走る泣き笑い
永田 紀恵

人間が読めてやわらぐ相聞歌
寒い朝とろり幸せ温い床
山田 順啓

ピカピカも今じゃがたびしマイホーム
土産買う向こう三軒両隣
田中 愛子

無邪気はいいね付度なんか何もない
幼子の無邪気な目には逆らえぬ
青嶋由紀美

コンサートとろける顔と眠い顔
そっとして置こうとろけている二人
茶谷 好太

土産買う向こう三軒両隣
タワマンに憧れ夕陽友になる
龍田 清成

公園デビュー無邪気にはしゃぐも母も
介護の母無邪気心が痛みます
確水 祥昭

西川 東岳

栗原つや子

橋本 恭治

幼な子がニギニギして笑つて

吉丸 等

一日の疲れ無邪気な子が癒す

瀬戸 波紋

ほろ酔いの笑顔同期が肩を組む

若山 宗彦

無邪気な声残るテープは捨てられぬ

青嶋由紀美

子どもらは無邪気に遊ぶ通夜の席

鈴木かつえ

明日への希望をくれた子の寝顔

常國 喜好

無邪気さに勝る宝は見つからず

中村 流星

無邪気さが時にいけずをします

能田 文夫

救急車を振る無邪気抱きしめる

替地三枝子

赤ちゃんの笑顔が垣根低くする

福本 清美

猫だとは思っていない家の猫

武藤 伶子

目を細め無邪気な子らへ仲間入り

坂本 和子

天然のキアラで生きてる裏おもて

原 加代子

屋下がり無邪気な猫に遊ばれる

神内 澄子

邪気のない友の笑顔に救われた

入江 晴菜

喜びを隠しきれないほど無邪気

三瀬清一朗

孫が聞くシャボン玉の行く先を

諸富 幹夫

青空と無邪気に遊ぶ鯉職

藏田 康子

発明の元は無邪気な好奇心

村田 繁一

いたずらの後にっこりと得意顔

大島美智代

気ままな風に乗ろう無邪気なシャボン玉

弘津 明子

あどけない子らを犠牲にエゴエゴ

稲垣 義舟

ドラ息子無邪気な頃に戻したい

田渕 愛子

苦勞した母の無邪気を抱きしめる

小代千代子

ほっというやろうやさしい早合点

掃部 博隆

カレーでもハンバーグでもいい無邪気

みよしすみこ

ごめんなさいとはぼ三歳の顔で言う

中武 弓

転んでも空を見ている子の目蓋

戸田 清孝

飼い猫に習う無邪気のテクニク

山口由利子

ひとりだと泳ぎたくなる露天風呂

穴戸三喜恵

いつだって無邪気になれる土いじり

山田 順啓

逆さまの絵本を読んでいることも

山岸 洋美

無邪気さを武器にぐいぐい押してくる

廣田ひで子

ひまわりは無邪気に咲いていたかった

前田ゆうこ

宿題 新

黒田るみ子 選

少子化の重荷をしょって新生児

廣田ひで子

限界に挑戦見事新記録

大島美智代

頼もしいオーラ輝く新人だ

中谷 栄子

新しい出会い嬉しい春うらら

和泉富美子

先ず顔をうずめ新刊書の匂い

小代千代子

AIと共存愉快新時代

藤井 裕美

新しい物好き老いが外される

香川 大

半世紀過ぎてても呼び名新幹線

細川 正章

ジュリアナで新人類をしました

安藤 緑

新しい春の来る音ミモザ咲く

原 加代子

新人のアイドル見では変わる推し

高瀬 秀子

新しいこと始めたくなる新学期

黒田さゆり

新人生内に秘めてる可能性

南 高志

ルーキーの活躍ベテランが霞む

西谷 公造

フレッシュな顔ぶれ句会活気づく

若山 宗彦

新人の勢いまるで活火山

豊田 佳子

新聞をまだ丹念に読む米寿

村田 繁一

高齢と空き家が目立つニュータウン

山田 順啓

何歳になっても初体験がある

毛利 元子

新緑とコロポ見事な青い空

小林 祥司

再びはない毎日が新しい

田中五十鈴

日々新たな台本なしの幕が開く

常國 喜好

新しい朝へきのうを呑み込む

戸田 清孝

真っ新な心でくぐる初詣

稲垣 義舟

ネクタイもちょっとほにかむ社員

青嶋由紀美

新たななる火種を生んだ形見分け

石丸 尚志

ホイッスルへ飛び跳ねて来る新児童

桑野まりこ

そして朝新妻そっと薄化粧

安西 廣恭

新社員大器晩成我慢

富川 章

家電故障新品になり老い泣かす

松岡登代子

新機能使いこなせず孫を呼ぶ

渡辺 柳山

心にも新芽の予感春の朝

藏田 康子

入社式ほのかに匂うコロンの香

横山 順子

敬老会新人の席六十五

橋本 恭治

議事堂へ新人議員畏まる

碓氷 祥昭

新人がまさかまさかの下剋上

土居 直子

新人類と言われた俺も杖をつく

大岩 郁夫

新色のファッションまとう気は 干歳

島田千代子

新月の暗い道です手をつなぐ

入江 晴菜

未知との遭遇新刊書から育つ夢 前田ゆうこ

宿題 老人 人 片岡 加代 選

やる気満々老人などと呼ばせない 富永 熙子

ああついに優先座席譲られる 橘 和美

子に頼み孫に頼んでやっと出来 中村 流星

百歳の正座が味のある言葉 竹明なおみ

老人の知恵袋には適わない 恵利 菊江

徹子さん新老人の鑑です 田淵 愛子

ウルマンの言葉を糧として生きる 能田 文夫

戦火知る老いの願いは武器持つな 山岸 峰隆

老人ではないと七十まだ職場 橋本 恭治

ほっといても老人力は付いてくる 青嶋由紀美

老人の記憶でつなぐ村行事 鈴木かつえ

生きた分話が長い丸い背 替地三枝子

逆らわず上手に老いる八十の道 谷口委佐子

老いかなし独居老人なお哀し 武藤 伶子

あれこれとやたらに増える代名詞 渡辺 柳山

老いふたり話は今日も幕仕舞い 福本 清美

紅椿そっと咲かせて老い独り 石丸 尚志

聞き取れず隣に合わせ笑ったこ 諸富 幹夫

老人がヤングに戻るクラス会 三瀬清一郎

挑戦を止めると老いが加速する 大島美智代

老人を忘れ楽しんでる今 毛利 元子

老人大国の思わぬ底力 若山 宗彦

老いたって飽きないんだよ生きること 米田 恵子
おばあさんと呼ぶから私ではないね みよしすみこ
老人の歩幅で今日を渡り切る 戸田 清孝

老老介護杖と笑いで生き延びる 中武 弓
量少な目のシニアランチが欲しい歳 土居 直子
老人と言われ自由を謳歌する 香川 大

ばあちゃんのペースで犬は散歩する 安藤 緑
綾鼓恐い執着今の世も 六戸三喜恵
趣味ひとつあれば老いても怖くない 住田 照水

老人と自覚してない膝小僧 藏田 康子
老人でも恋の火種の二つ三つ 稲垣 義舟
老人と呼ばれましたか私を 和泉富美子

老いの川渡り切れない火の女 弘津 明子
老人になっても老いてなどいない 小代千代子
老人も粗末にするな納税者 茶谷 好太

一生は遠くて近いなと気付く 佐藤 后子
老人のうふふバス賃安くなる 山田 順啓

老人と海ならぬ老人と猫 大岩 郁夫
老人の天下だ朝の散歩道 阿部 俊八
献血は卒業します古希の春 西谷 公造

老人はもう走ってはいけません 神内 澄子
十八と机並べる喜寿の春 鮎子田嘉子
見つめてる考えているあら寝てる 高瀬 秀子

イメージ吟募集

2026年8月号(6月15日必着)

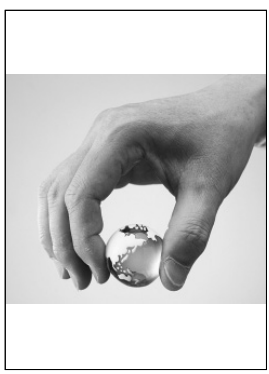
第130回 イメージ吟(2句)



※番号6月号の投句用紙をご利用ください。

2026年9月号(7月15日必着)

第131回 イメージ吟(2句)



※番号7月号の投句用紙をご利用ください。